



室蘭・海星学院高校で 「世界一大きな授業」

途上国の教育事情学ぶ

室蘭・海星学院高校(香川謙二校長、236人)の「世界一大きな授業」が13日、高砂町の同校で実施され、発展途上国の教育事情について理解を深めていた。この日は1年生92人が参加し、国際協力機構(JICA)北海道の二見伸一

郎市民参加協力課長が講演した。

二見課長はエチオピアの現状を現地の写真を見せながら紹介。「現地の人は安全でない水でも飲まないと生きることができず、水をくみに何度も水場を往復しなければいけないので、学校に行く時間が取れない」と、子どもたちが劣悪な環境に置かれていることを強調した。

その上で「日本にいれば教育を受けられるのが当たり前だが、エチオピアには

学校にすら通うことができない子どもたちが多くいる」と説明。発展途上国の厳しい現実を目の当たりにして、生徒たちは学ぶことができたありがたみを実感していた。

世界一大きな授業(教育協力NGOネットワーク主催)は2003年(平成15年)にスタート。世界の約100カ国で同時期に教育の大切さを考える地球規模のイベントで、同校では毎年実施している。

(池田勇人)